

会議・協議等記録簿（要旨）

企画課 企画調整係

議 題	第3回野沢地区のまちづくりの構想策定に係る有識者会議		
日 時	令和2年1月20日（月） 午後 1：30～ 2：46	場 所	議会棟 第一委員会室
出席者	小林直人委員、荻原泰昭委員、伊藤康弘委員、臼田行孝委員、北澤潔委員、堀内ふき委員、中沢文子委員、下平匡克委員 （欠席）森角和士委員、小林勉委員 企 画 部：佐藤部長、若林課長、木下係長、井出		

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議事

議事内容まとめ	
事務局	「野沢地区暮らすまち構想（案）」について説明（資料2）
委員	<p>大変うまくまとまっていると思う。まちの中心の経済活動が衰えたら、まちはなくなってしまう。これが、今野沢の一番の問題点である。まちの中には人が住まなくなり、店がなくなって、周りの田んぼに家が建っていく。インフラが広がり、市の負担も増えていってしまう。行政は、まちの中心にインフラを誘導できるように考えていただきたい。</p> <p>また、まちの中でも住宅地域が明確に決められていたり、分けられているが、規制を緩やかにして、いろいろな経済活動ができるような分けが必要になってくる。</p>
事務局	<p>市の方でも立地適正化計画を作っているが、佐久市は合併でできたまちということもあり、単純に一極集中というわけにはいかなく、佐久平、岩村田、野沢、中込、臼田などの多極型の拠点があり、これをネットワークで結んでコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進めている。既に住んでいる人たちをまちの中心に無理に連れてくるのではなく、まちの質を高めることで、緩やかに誘導していく考え方であり、まさに今回の構想は、野沢の中の用途地域に、エリアを設定して、いかに魅力を高めていくかという形である。</p> <p>一方で、住宅地だとか用途がしっかり決まっている部分において、あまり決まりすぎていると、経済活動が行えないんじゃないかという部分は、市とすると農振の地域を外さないことでエリア拡大をできるだけ抑えてきた。規制緩和することにより経済活動が活発になるということもあるし、一方で用途地域の型にはめることで、エリア拡大を防いできた。</p> <p>ご意見については、今後、土地利用上の考えの中で市として方向性を出していきたい。</p>

委員	<p>野沢はまちの中が広く、商店や経済活動を行っている主体が離れすぎているので、それらの点と点を線でつなげていく必要がある。逆に、空いているところに単に点を持ってこれるのかということこれも難しい。まだ、人口も経済活動も活力も減っていく要素があり、商店などがなくなっていくと、寄附も減り、祇園祭やびんころ地蔵の山門市などが存続できなくなってしまうことが危惧されている。</p>
事務局	<p>この構想の中で、行政と民間の役割分担についても言及しているが、市としては、この構想に沿って、公共事業を進めていく予定であり、民間の事業者もこの構想に沿ったまちづくりを實踐できるような仕掛けづくりを考えていきたい。</p>
委員	<p>野沢の振興組合に参加している企業が年々少なくなっている。中核である十二町の商店街はほとんどシャッター街の状況であり、ツタヤがある本町が発展している。</p> <p>既存の事業者への支援も必要だが、むしろ外から入ってくる事業者への支援も必要なのではと思う。民間だけでなく、行政も空き店舗の活用だとかで支援してもらいたい。また、民間からここが空いているから使えますよと言うことは難しい。埼玉県のパ和地区と大宮地区の比較で言われるが、パ和は住むまち、大宮は賑わいのまちとして発展してきた。しかし、最近パ和地区は住みやすい分譲地区でも、どんどん新しいお店ができてきて賑わっている。野沢もそういうまちづくりができるのではないかと。それには、外からの新規参入がないと無理なのかなと感じた。</p>
事務局	<p>市でも空き店舗の補助金があり、使われてきているが、一方で地域の考え方の格差で、使われ方に差が出ている。それは、地域の皆さんの考え方にもよるので、商店街でも迎え入れる環境を整えてもらいたい。市としても、商店街の皆さんと連携して進めていきたい。</p>
委員	<p>例えば、中心地にあった飲食店が空き店舗になっているが、民間任せにするのではなく、良い拠点になれば活用していただくなど、佐久市全体の中で考えてもらいたい。</p>
事務局	<p>市とすれば、一つの空き店舗をピンポイントで活用していくというのは難しい状況だが、地域にとって核となり、シンボリックなものであれば、地域の皆さんと話し合いの場を持ち、考えていきたい。</p>
座長	<p>まちづくりミーティングでも出ているような意見を参考にしながら、公共で歩道などは整備してもらって、学生が徒歩や自転車でいきたいお店に行けるようにして、学生の流れを商店街に持って来れば良いと思う。空き店舗についても、行政ができる範囲、民間に努力してもらおう範囲、その辺をきちんと決めてやってもらいたい。</p> <p>公共の関係で、野沢小学校は校庭で遊ぶ子供が多い。児童館も、小学校の近く、できれば隣接の運動広場に持ってきて、大勢の方が憩える公園的なものを作ってもらいたい。公園も分散して作っても効果が無いので、みんなに見えるような開けた公園であれば、子どもも見守ることもできるし、ちょっとしたあずまややベンチがあれば高齢者も交流できるのではないと思う。まちの中心部がせっかく大空間になっているので、なんとか活用してもらいたい。小学校の子ども達も学校が終わったら児童館に行く、遊具はそんなに揃えなくても良いと思うが、子ども達が寝そべって遊べる広いスペースがあればよい。そうすれば、お母さんたち</p>

	<p>も来て、交流ができる。例として、市内の道の駅には遊具がちょっとあるだけだが、ちょっとした広場的なものがあり、土日はたくさんの家族で賑わっている。運動広場であれば、駐車場も設けられるので、けっこう人が集まってくるのではないか。分散するとその地域の人しか利用できないので、まちの中心に集中的にそういうものを設けてもらいたい。</p>
委員	<p>民間と話をしていくと時間軸で考えるとかなり時間がかかってしまうと思うが、図書館があるとよいのではないか。野沢会館の改築の検討委員会の中でも、中学校がある地区には図書館があるという中で野沢にはなく、ツルヤさんに買い物に来たついでに寄れたりだとか、住民説明会の中でも図書館の要望が強かった。この資料の中でも、若い世代も子育て世代も図書館の要望が入っている。人が集まる、暮らしやすいという特徴からも、地域の魅力付けという点でも、かなりいいのかなと思う。</p> <p>若い人たちも増えてきているが、高齢者も多くなってきていて、元気な高齢者が見守って、若い人たちが住みやすい地域になっていくということになると、市の方で地域に肉付けをすることで地域の魅力は増してくる。そうすると、人の流れも良くなってくるので、いい結果をもたらしてくれる。野沢会館についても、野沢地区のシンボリックなものであり、そういった付加価値をつけた形の地域にしていくことが大事である。野沢小学校は、金曜日の朝に読み聞かせを続けていて、そういった特徴も出していったらよい。</p>
委員	<p>行政でやれる部分、民間でやれる部分を決めていただいて、検討してもらいたい。</p> <p>子供たちが出て行ってしまうことは、この地域で学べる場所がないことが一番の原因だと思う。県外でないと自分が目指すところが無いと。専門学校など、そういったものが出来てくれればいいなと思う。</p>
委員	<p>この構想自体は良くまとまっていると思う。具体的に市でこういったものを考えられるのか、具体例を示すとイメージがしやすい。こういう構想があって、市とすればこういう施設が検討できますとか、こういうような場所を提供できますとか。結果までうまくわかるようなプロセスを見せていただくと市民に伝わりやすい。</p> <p>高校生の流れを持ってきたいということだが、図書館が結構キーポイントで、他市の図書館は朝10時くらいから山のような高校生がいて、自習室に入れない。野沢には2つの高校があって、あのあたりに図書館がなくどこで勉強しているんだろうと思う。高校生の流れを持ってこれれば、高校生が飲食したり、経済効果もある。岩村田で学生がたくさんいて飲食をしている様子を見ると、あながち無視できない経済力である。</p> <p>空き店舗については、岩村田の「こてさんね」は、シェアをしながらお店をやっていて、「こてさんね」でやっていた人が独立してお店を持つなどそういうことが起こっている。だとすると、もし十二町の商店街にそういうところがあれば、市でそういうスペースを誘導して創業したい人が集まってやってみようとか、そういうことが経済力を培っていくベースになると思う。</p> <p>また、新規で農地を買って家を建てられた方が利用できるように、地元の方が作った野菜などを販売する無人販売所があるとそこで交流が生まれるのでは。地</p>

	元の方は、なりすぎて困った野菜をどうしようかと思っっていると思うので、そういうことを運動広場などを活用してやってみたらどうだろうか。
委員	野沢は、ツルヤや西友、道の駅があり、県外から大勢のお客さんが来ている。構想策定に当たって、ミーティングをやったので、学生が希望しているようなもの、それに近づけられるように、行政と商店街の話し合いで良い方向に持って行ってもらえればよい。とにかく、流れを変えないと駄目である。今、野沢の高校生はバイパスや野沢橋を通過して、直接駅に行ってしまう。商店街への流れがない。その流れをどうやって引き戻すのか。教育機関もあり暮らしやすいため、周りには家が建っているが、中心地の商店街が活性化していない。
委員	野沢会館の中に自習室があり、新しい会館でも120席ができる。野沢商店街の空き店舗でそういうことをやると、割と時間的には短い時間の中で実現できるかもしれない。高校生は、今自習室で結構勉強しているのだから、そういう機能を移していくことも考えられる。
委員	構想については、誰が読んでもわかりやすくまとまっている。 今の図書館は、長野県立図書館のように、コーニングスペースという言い方をするが、いわゆる動く、同じような発想を持っている人たちが何人か集まってホワイトボード前で議論をするというように、昔のような静かな図書館ではなく、動的な図書館、スペースが注目されている。単なる静かに自分のペースで勉強する図書館的な場所と、同じ世代の人たちの交流とか多世代と交流できるスペースを、うまく作っていくと若者を交えた賑やかさで生きてくる気がする。 あと、構想の中で子どもという言い方と若者という言い方と学生、若い世代、色々な言い方が混在している。子育ては子どもがよいし、高校生から上くらいは、高校、短大、大学、専門学校を含む、若者というくくりなのかなと思う。言葉を統一した方が読みやすい。
事務局	表現については、統一し、できるだけわかりやすいようにする。
委員	高校の統廃合が検討されているが、一つになってしまうのか、二つとも残るのかそこらへんは分からない。
委員	図書館も、新刊を入れてくれと要望があるが、周りの本屋さんが駄目になってしまう。新聞も図書館にあると取り合いで、喧嘩になるという話も聞いている。はたして、図書館が良いのかということもあり、民間の影響も考えないといけない。図書館は本来どういうものなのかということも考えていかないといけない。本を購入して、大事に読むことも必要である。
委員	図書館については、子ども達が図書館にどういうイメージを持っているのかを聞く必要がある。我々が考えている図書館と、今の若い人たちの図書館はイメージが違う気がする。
委員	暮らしやすさということを軸に様々な意見をまとめていただいたと思う。うまくいっている商店街は外から新しいバックボーンを取り入れて、起業したりしているので、参考にしてもらえればと思う。具体的な意見もたくさん出ているので、良く検討していただいて、市の方でも取り組んでいってもらえたらと思う。

委員	野沢の商店街については、防災街区として行政を主体に街並みを作ったので容易に取壊しができない。それがすごく負担になっていて、新しい人がそこに入りたくても入れない。2階に住んでいて、トイレは1階にしかない。このような建物だと店として、本当に人がいなくなって売れるのかというと、これも売れる状態ではない。そういうところがあって、十二町商店街は大変な状況である。行政の方でうまく考えてもらいたい。岩村田商店街のようにお金が無いので、再興はなかなか難しいと思う。
事務局	防災街区の関係は、市のそれぞれのセクションごとにまちづくりにとってどうしていくのがいいのか、検討している。構想が出来たところで、まちの要素としてどういったものが必要なのかということも併せて検討させていただく。
座長	それでは、いただいたご意見等を踏まえて、事務局で調整し、本構想を完成させていただきたいと思う。
事務局	今後、皆様からいただいた意見を踏まえて事務局で成案化し、最終的な構想については、後日、お送りさせていただく。
座長	次に「4 その他」について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	野沢地区関連実施計画の説明（資料3）
委員	道路は必ず歩道をきちんと確保していただき、自転車や歩く人にやさしいまちにしてほしい。
事務局	いただいたご意見は、庁内各部署に伝え、本構想に基づき事業が展開できるようにしていきたい。また、野沢地区がより魅力のあるまちとなるように、民間の皆様のご協力も必要になってくるので、一緒に取組んでいきたいと考えている。
座長	本構想の実現に向けて、引き続き、委員の皆様にもご協力をお願いしたい。最後に、全体を通して、委員の皆様から何かあれば発言されたい。
委員	特になし
事務局	委員の皆様におかれては、それぞれご多忙なところ、度重なるご参集をいただき、様々な角度から、熱心なご意見をいただいたことに、心から御礼申し上げます。 市としては、本構想は、今後野沢地区のまちづくりを進めていくに当たって、軸となる構想と位置付けている。市だけで実現できるものではないので、様々な皆様に様々な取組を行っていただきたいと考えている。委員の皆様をはじめ、多くの方々のご協力を賜りながら本構想の実現に向けて取り組んでまいりたい。
	(閉会)
	以上